

高 兵庫県立神崎高等学校

所在地 : 兵庫県神崎郡神河町
生徒数 : 208名
設置学科 : 普通科

進路指導部長・国語科主任 山本 頼彦 先生



導入の背景とポイント

- 入学段階で義務教育までの学習の定着が十分でない生徒のために、学び直しのための科目を設けることにした
- 科目の構想段階では、義務教育レベルの国語・数学・英語をまんべんなく学習できる教材を検討していたが、以前も同様の教材を取り入れて期待する学習効果が上がらなかったことから、すべての教科・探究学習で不可欠な「言語事項」、「読解スキル」、「文章表現スキル」に焦点を絞って学習できる教材『文章カステップ』を採用することにした
- その教材での学習効果を客観的にアセスメントし、学習の成果を生徒の進路実現に還元するためにも「文章読解・作成能力検定」（以下、「文章検」）を活用することにした
- 「文章検」が文部科学省の「高校生のための学びの基礎診断」において、国語分野で認定されていることも決め手となった
- 「地域に対する“進学もできる学校”の認知づくり」も課題であることから、大学入試における総合型選抜や学校推薦型選抜等でも評価・活用されている「文章検」を導入することが進学指導の充実にもつながると考えた

取組概要

【目的・目標】

義務教育段階の学習事項を学び直し、高等学校での教科学習にスムーズにつなげる。
特に、すべての教科・探究学習の基盤となる「言語能力」・「情報活用能力」の育成を目指す。

【育成したい資質・能力】

言語能力（言語事項、文章や図表の読み取り、表現）、情報活用能力（情報の読み取り、整理・分析）、学んだ内容を読書や新聞記事の読み取り等の他の活動に活用する力、社会の出来事に関心を持つ態度。

【対象学年】

1年生

【受検級】

4級

【教材・検定】

『文章カステップ 4級』、『文章カステップ 3級』、「文章読解・作成能力検定」、
「文章読解・作成能力検定」の過去問題、漢字・語彙の学習教材

【指導概要】

1年生「学び入門」 [1単位] (学校設定科目)

国語科教員がメインで学習指導を行い、学年主任が適宜フォローに入る体制で進めた。
中間考査でも『文章カステップ』の学習事項を出題し、定着確認を行った。

年間指導スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
『文章カステップ』（4級）						『文章カステップ』（3級）						
1章 語彙・文法	2章 資料分析	3章 文章読解			4章 通信文	5章 意見文	過去問題 文章検4級 受検	1章 語彙・文法	2章 資料分析	3章 文章読解	4章 通信文	5章 意見文

教員への効果

文章指導に対する認識変化と全体指導の手応え

- 文章指導は、個別指導でしか対応できないという固定観念があった
- 読解・文章表現に必要な要素が体系的かつ系統的に収録されている『文章カステップ』を活用することで、指導経験が豊富でない教員でも安心して手ごたえを感じながら指導をすることができ、文章指導は全体指導でも可能であるという認識が変わった
- これまでの文章指導を振り返ってみると、個別指導が必要になるのは生徒が希望する進路先を決めてから行っており、生徒と対話しながら「何を書くか」が指導の中心になっていた
- 一方で、出題者の意図を文章や図表から正確に読み取ったり、その意図を的確に捉え論理的に文章で表現したりといった「どのように読むか、書くか」の指導については、疎かになっていたと感じた
- 他教科の教員も『文章カステップ』に沿って指導すれば、一定の質は担保できる印象を持った
- テキスト活用により小テストの作成と丸付け作業を無くすことができ、指導の効率化も図れた

生徒への効果

生徒目線での教材選定・活用により学習の手応えと自信を獲得

- 『文章カステップ』はスモールステップで取り組める教材設計になっているため、生徒が自身の困り感に向き合うことができ、手応えを感じながら自ら演習を進めている様子が見られた
- 全問解答解説付きのテキストであるため、生徒が理解を深めながら学習することができた
- 「文章検」導入初年度の合格率は80%超で、満点合格をした生徒もいた
- 高校入学まで学習における成功体験が少なかった生徒も「検定合格」という成功体験を積むことができ、自己肯定感・自己効力感の醸成にもつながったと感じている

今後の展望

学習指導要領や大学入試、就職試験で求められることへの対応も視野に

- 「学び入門」の目的・目標を達成し、生徒の資質・能力を育成することができたと捉えている
- 進路実現に必要な文章力をつけ、その力を検定取得によって客観的な証明としてアピールできる「文章検」は、総合型選抜や学校推薦型選抜での進学を希望する生徒や就職を希望する生徒にとって効果的だと感じている
- 今後は指導と評価の一体化を実現するためにも、「文章検」の設問ごとの受検結果を観点別評価の補完的な材料として、「現代の国語」や「論理国語」等の国語科目の中で活用していきたいと考えている